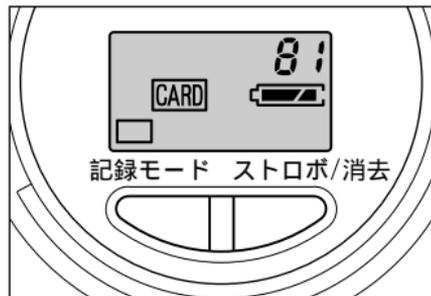
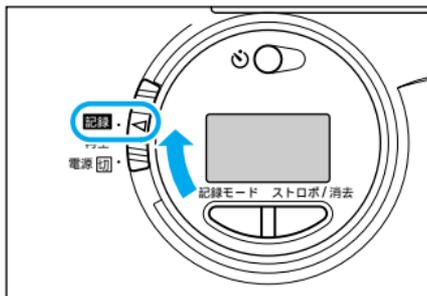




# 電源を入れます



メインスイッチをスライドさせると電源が入り、メモリーカードのデータチェックを行います。撮影の前に、次のことを確認してください。

メモリーカードは入っていますか？ ➡ P.41

メモリーカードは初期化されていますか？（新しいメモリーカードの場合）➡ P.42

メモリーカードはライトプロテクト解除されていますか？

➡ P.40

## 1 メインスイッチを「記録」にスライドします。

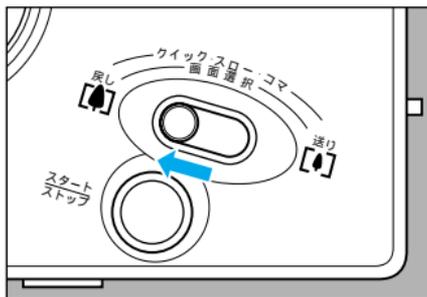
**補足** メインスイッチを「記録」にスライドした状態で、約3分半カメラの操作（レバーやボタンの操作）をせずに放置しておくと、節電のため「オートパワーオフ」になり、情報パネルには電池マークだけが表示されます。いずれかのボタンやレバーを操作することで、再び電源が入ります。

電源が入り、情報パネルが表示されます。

- 補足**
- メインスイッチを「電源切」にスライドさせると、電源が切れます。
  - メインスイッチの「電源切」または「オートパワーオフ」が動くとき、設定されていた各モードは解除されます。
  - メモリーカードのデータをパソコンで削除した場合、そのメモリーカードを使用すると、情報パネルの「CARD」の文字が点滅し、データチェックを行うため撮影できるまでに時間がかかります。

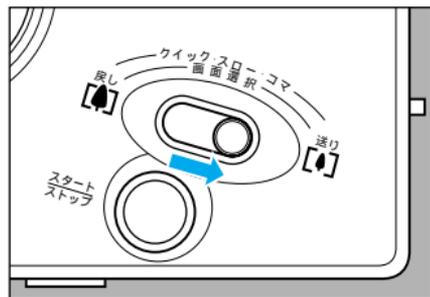
# 被写体の 大きさを変える

ズームレバーを動かすと、撮る人は被写体までの距離を変えずに、ファインダー内の被写体の大きさを変えることができます。



**被写体を大きくします**  
ズームレバーを [←] 側へ動かします。

**補足** 被写体がだんだん大きくなります。(写る範囲は狭くなります。) このように被写体をより大きく写せる状態を「望遠」といい、ポートレート撮影などに適しています。



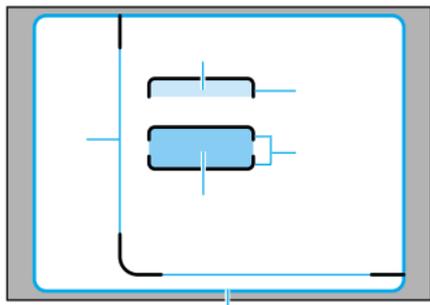
**被写体を小さくします**  
ズームレバーを [→] 側へ動かします。

**補足** 被写体がだんだん小さくなります。(写る範囲は広くなります。) このように被写体をより広い範囲で写せる状態を「広角」といい、風景の撮影などに適しています。

# ファインダー内の表示の見かた

ファインダーをのぞくと、右の図のような表示が見えます。この表示の意味と使いかたを説明します。

**重要** 微妙なフレーミングを要求する場合は、前もってテスト撮影をして撮影される範囲を確認してください。



## 撮影範囲枠

撮影したいものをこの中におさめてください。

## 望遠時近距離補正枠

被写体までの距離が0.4~0.5mでレンズが望遠側の場合、この枠の中に撮影したい物をおさめてください。

**オートフォーカスマーク**  
ピント合わせが行われる範囲の目安となるマークです。

**望遠近距離時オートフォーカスマーク**  
被写体までの距離が0.4~0.5mでレンズが望遠側の場合のオートフォーカスマーク。

## オートフォーカス範囲

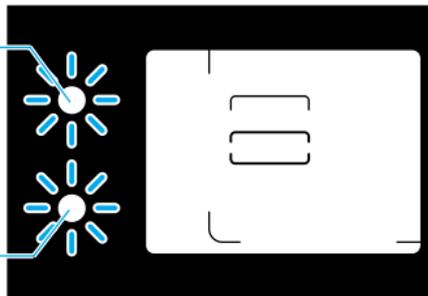
レンズが広角側の場合、またはレンズが望遠側で被写体までの距離が3m以上のときのオートフォーカスの範囲。

**望遠近距離時オートフォーカス範囲**  
被写体までの距離が0.4~0.5mでレンズが望遠側の場合のオートフォーカス範囲。

レンズ	被写体までの距離	撮影範囲枠	オートフォーカス範囲
望遠	0.4~0.5 m		
	0.5~3.0 m	~	~
	3.0 m ~		
広角	0.4 m ~		

# ランプ表示について

オートフォーカスランプ（緑）



ストロボランプ（赤）

ファインダーを覗いて、リリースボタンを軽く押すと、オートフォーカスランプとストロボランプが点灯もしくは点滅します。

## オートフォーカスランプ（緑）

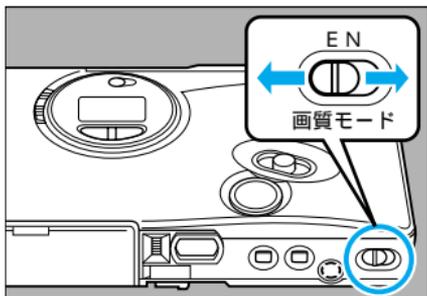
表示状態	意味	シャッター	参照ページ
点 灯	ピントが合いました	切れます	P.54
点 滅	ピントが合わないことがあります	切れます	P.55

## ストロボランプ（赤）

表示状態	意味	シャッター	参照ページ
点 灯	ストロボが発光します	切れます	P.55
点 滅	ストロボが充電中です	切れません	P.55
おそい点滅	ストロボモードが発光禁止のとき、または記録モードが文字モードのときに、露光が不足しています	切れます	P.66

**補足** 液晶モニター（別売り）やテレビにカメラを接続して撮影する場合、ピントが合うと「撮影できます」、ピントが合いにくいと「測距できませんでした」というガイダンスを画面に表示します。

# 画質モードについて

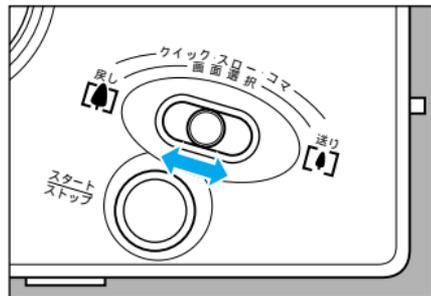
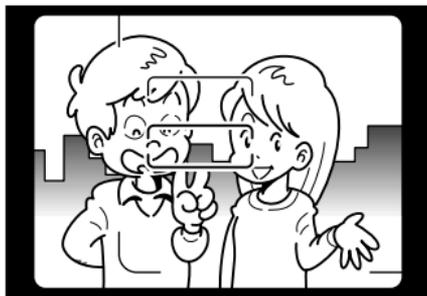


データの圧縮・伸長技術を使ってメモリーカード内に多くの情報を記録できるように処理しています。画質モードには、記録枚数を優先したE（エコノミー）モードと画質を優先したN（ノーマル）モードがあります。用途にあわせて画質モードを切り替えてお使いください。

**1** 画質モードスイッチを動かして、画質モードを決めます。

**補足** 画質モードを切り替えたときの、記録枚数について → P.120

# 撮影します (静止画モード)



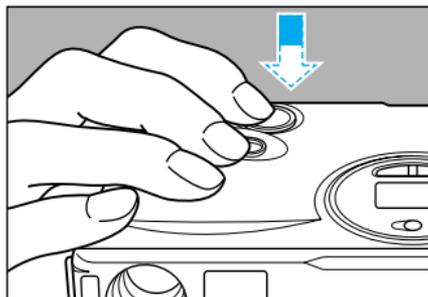
ここでは基本的な静止画モードの撮影方法を説明します。カメラが動かないように正しく構えて撮影してください。⇒「カメラの構えかた」P.46

## 1 ファインダーをのぞき、撮影したいものにカメラを向けます。

最短撮影距離について  
被写体までの最短撮影距離は、約40cmです。これより近い距離で撮影すると、ピントが合いません。

## 2 ズームレバーを動かして、被写体の大きさを決めます。

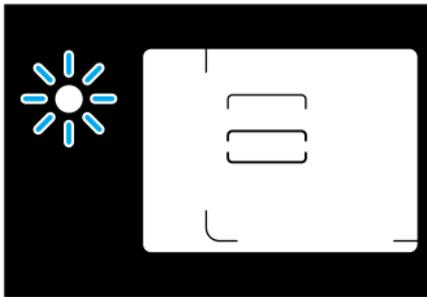
**補足** 被写体の大きさ ⇒「被写体の大きさを変える」P.49  
ファインダー ⇒「ファインダー内の表示の見かた」P.50



### 3 人さし指の腹でリリースボタンを軽く押します。

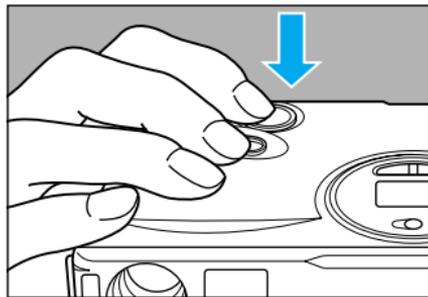
リリースボタンは2段階になっています。軽く押すとオートフォーカスが作動する音が生じてピント合わせが行われ、さらに押しきるとメモリーカードに記録されます。

**補足** オートフォーカスマークの中に見えるものにピントが合いません。被写体がオートフォーカスマークからはずれているときは、フォーカスロックで撮影してください。➡「フォーカスロック」P.69



被写体にピントが合うと、ファインダー内の左側にある緑色のオートフォーカスランプが点灯します。

- 補足**
- ストロボが充電中のときは、オートフォーカスが作動するまで少し時間がかかることがあります。
  - オートフォーカスが作動する前にリリースボタンを押しきると、被写体のピントは合わないことがあります。オートフォーカスランプの点灯を確認してから操作してください。
  - オートフォーカスランプ ➡「ランプ表示について」P.51



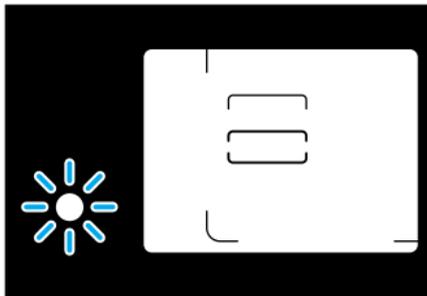
### 4 そのまま指を離さずに、リリースボタンを静かに押しきります。

「ピッ」というブザー音(確認音)が鳴り、メモリーカードに記録されます。記録中は、記録/セルフタイマーランプが点灯します。情報パネルの残り記録枚数の表示がひとつづつ少なくなります。

**補足** 液晶モニター(別売り)やテレビにカメラを接続すると、撮影した内容を約3秒間表示します。撮影の確認が容易にできます。

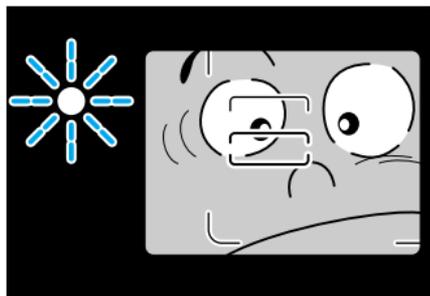
## ブザー音を消すには

カメラ本体のメインスイッチが[記録]の状態の時刻(送り)ボタンを、「ピッ」という短いブザー音が鳴るまで約5秒以上押し、記録時のブザー音が消音に設定されます。設定を解除するには、同様の操作を行います。「ピーッ」という少し長めのブザー音が鳴り消音を解除します。



暗いところを撮影するときなど、ストロボが発光するときは、リリースボタンを軽く押したときにファインダー内の左側にある赤色のストロボランプが点灯します。

**補足** ストロボ充電中は、ストロボランプが点滅します。このときは、撮影できません。



被写体に近づきすぎた場合、または次ページのような被写体にピントを合わせようとした場合は、ピントを合わせられないことがあります。このとき緑色のオートフォーカスランプが点滅します。(撮影はできません。)

このようなときは、少し離れて撮影するか、マニュアルフォーカス機能を使用するか、写したい被写体と同じ距離にある、違う被写体にピントを固定すると、フォーカスの合った撮影ができます。

➡ P.69

## ピントの合いにくい被写体

次のような被写体には、ピントが合わせられないことがあります。

コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）

横線だけで、凹凸もないもの

動きの速いもの

低輝度（暗いところ）のもの

繰り返し模様になっているもの

強い逆光および反射光があるもの

蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、写したい被写体と同じ距離にある違う被写体にピントを固定してから撮影してください。⇒「フォーカスロック」P.69

### 重要

- 逆光のときには、被写体が撮影範囲の中央にくるようにしてください。  
撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断せず、露出補正をしません。
- ストロボを必ず発光させたいときには、強制発光モードに設定して撮影してください。⇒ P.65
- 被写体までの距離が近い場合はストロボの光量が調整され、ソフト発光となります。最短距離でも自然に近い色が得られます。
- ガラス越しに撮影する場合は、できるだけガラスにカメラを近づけて撮影してください。

## オートホワイトバランスについて

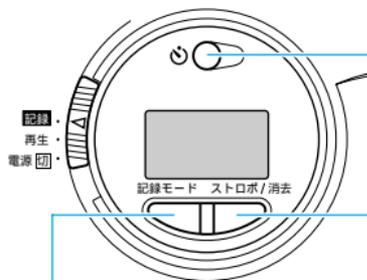
本機では被写体を自然な色合いに撮影できるように、白色系の部分を基準に自動的にホワイトバランス（白いものをどんな光源の下でも白く撮影すること）を調整しています。そのため被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。

オートホワイトバランスののがてな被写体

- 単一色な被写体
- 複数の光源のある被写体
- ストロボ撮影時の、奥行きのある背景

## モード設定のしかた

このカメラは、基本的な静止画モードの撮影のほかに、モードを設定することによっていろいろな撮影ができます。



### 記録モードボタン

記録モード（静止画モード、音声モードなどのモード）を設定します。

### セルフモードボタン

セルフモード（セルフタイマー撮影）を設定します。

### ストロボ/消去ボタン

ストロボモード（ストロボの発光に関するモード）を設定します。

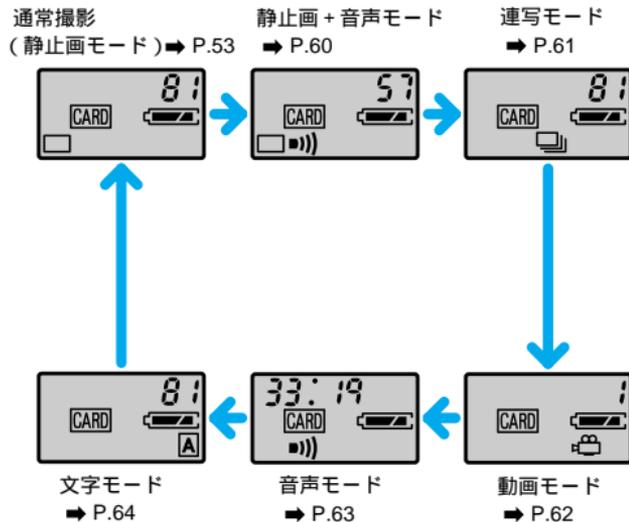
### 補足

- 各モードボタンを押すたびに、決まった順番でモードが切り替わります。  
➡「モード表示の移り変わり」P.58
- 記録モード、ストロボモード、セルフモード間で各モードを組み合わせ設定することもできます。

## モード表示の移り変わり

### 記録モード

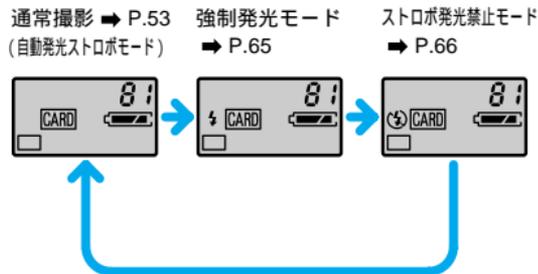
記録モードボタンを押して設定します。



**補足** 記録モードを変更すると撮影可能枚数も変化します。

### ストロボモード

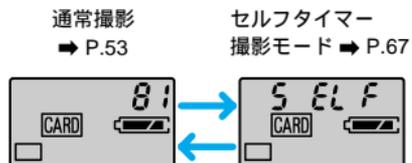
ストロボ / 消去ボタンを押して設定します。



**補足** ストロボモードでは、連写モード、動画モード、音声モード、文字モードを設定できません。

## セルフモード

セルフモードボタンを押して設定します。



**補足** セルフモードでは、静止画 + 音声モード、連写モード、音声モード、文字モードを設定できません。

# 静止画 + 音声モード

静止画を撮影した後に音声を記録するモードです。音声を約10秒間記録できるので、撮影状況などのコメントを添えるときに便利です。



### 1 記録モードボタンを押して、情報パネルに□🔊マークを表示させます。

リリースボタンを押すと、静止画を記録します。続けて、情報パネルの音声モードマーク(🔊)が点滅し、録音を開始します。音声モードマークが点滅している間(約10秒間)録音できます。

### モードを解除するには

記録モードボタンを押してモードを切り替えます。

# 連写モード



レリーズボタンを押している間、静止画を連続的に撮影できるモードです。

レリーズボタンを押したときの状態でフォーカスを固定し、約1秒に1コマの連続撮影を行います。シャッターチャンス逃すことなく撮影したいときに便利です。

### 1 記録モードボタンを押して、情報パネルに マークを表示させます。

レリーズボタンを押し続けると、約1秒ごとに1コマの連続撮影ができます。レリーズボタンから指を離すと連続撮影は停止します。

### モードを解除するには

記録モードボタンを押してモードを切り替えます。

**重要** 連写モードでは、レリーズボタンを押したときの状態で、フォーカスや露出調節を固定します。

# 動画モード



動画を記録するモードです。動画を約5秒間記録できるので、ビデオカメラのように動きのある状況を撮影するときに便利です。

**補足** 動画を撮影できるメモリーカードは、フラッシュメモリー搭載の高速タイプのメモリーカードです。

## 1 記録モードボタンを押して、情報パネルにカメラマークを表示させます。

リリースボタンを押すと、動画を記録します。続けて、情報パネルに動画の撮影残り時間をカウントダウンします。

## モードを解除するには

記録モードボタンを押してモードを切り替えます。

## 重要

動画モードでは、リリースボタン

を押したときの状態で、フォーカスや露出調節を固定します。

## 補足

記録、消去を繰り返したメモリーカードを使用する場合、動画を記録するだけの空き領域が確保できないことがあります。記録可能な枚数を必ず確認してください。

# 音声モード



音声を記録するモードです。メモリーカードの残りの容量にあわせて記録できる時間を表示します。

**重要** マイクはカメラの手前側にあります。必要に応じてマイクの向きを変えてください。

**補足** メモリーカード24M（型名FC-24H）では、最大で約1時間40分まで音声を記録できます。

## 1 記録モードボタンを押して、情報パネルに マークを表示させます。

情報パネルに音声の残り記録時間を表示します（上の表示は33分19秒をあらわしています）。リリースボタンを押すと、録音を開始し、情報パネルに録音経過時間を表示します。

## 録音を停止するには

再びリリースボタンを押すと、録音を停止します。

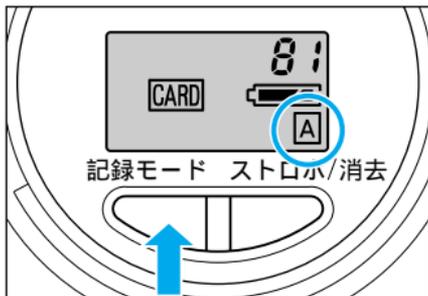
## モードを解除するには

記録モードボタンを押してモードを切り替えます。

# 文字モード

文字を記録するモードです。画像処理を最適に行うため、文字などがきれいに記録できます。

**重要** 文字モードをお使いになるときは、カメラに液晶モニター（別売り）またはテレビと接続し、ピントを確認しながら撮影してください。



## 1 記録モードボタンを押して、情報パネルに[A]マークを表示させます。

リリースボタンを軽く押した状態で画像を確認し、ズームレバーを動かしてピントを合わせます。ピントがあったらズームレバーから指をはなしリリースボタンをしっかりと押しきります。

## モードを解除するには

記録モードボタンを押してモードを切り替えます。

**重要** 文字モードではきれいに撮影するためにストロボ発光禁止モードになります。またシャッタースピードは遅くなりますのでカメラブレが起きないようにしっかり構えて撮影してください。

# 強制発光モード

逆光や強い光の下で人物を撮影すると、顔に強い影ができることがあります。このような影をやわらげたいときに、このモードを使用します。  
明るさに関係なく、常にストロボが発光します。



### 1 ストロボ / 消去ボタンを押して、情報パネルにマークを表示させます。

リリースボタンを押すと、ストロボを発光してメモリーカードに記録します。

**補足** 次の記録モードでは、強制発光モードにすることはできません。  
連写モード・動画モード・音声モード・文字モード

**重要** 暗いところではシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないようにしっかり構えて撮影してください。また、被写体も動かないようにしてください。

### モードを解除するには

ストロボ / 消去ボタンを押してモードを切り替えます。

日中シンクロで撮影する場合、撮影距離は広角・望遠ともに1.1 ~ 1.8 mです。

**重要** ピントを合わせた被写体にストロボの光が届かないと、被写体が暗く撮影されます。

# ストロボ発光 禁止モード

通常撮影の場合、暗い場所では必ずストロボが発光しますが、このモードを使用すると、暗いところでもストロボは発光しません。ストロボ撮影が禁止されているところで撮影するときや、室内の照明を利用して撮影したいときに使います。



**1** ストロボ/消去ボタンを押して、情報パネルに(🔴)マークを表示させます。リリースボタンを押すと、ストロボを発光しないでメモリーカードに記録します。

**重要** 暗いところではシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないようにしっかり構えて撮影してください。

### モードを解除するには

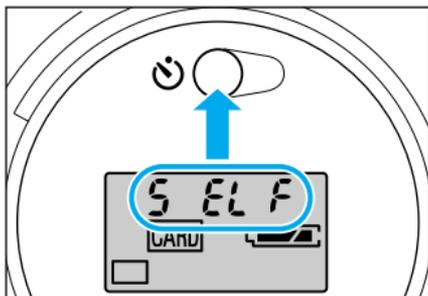
ストロボ/消去ボタンを押してモードを切り替えます。

### 補足

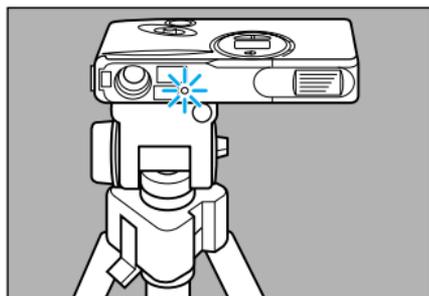
露光が不足しているときは、ファインダー内の左側にある赤色のストロボランプがおそく点滅します。➡「ランプ表示について」P.51

# セルフタイマー撮影

撮影者自身も入った記念撮影などを行うときにセルフタイマーを使用すると便利です。セルフタイマー撮影のときは、カメラを三脚や水平な台の上に固定してください。



**1** セルフモードボタンを押して、情報パネルに「SELF」を表示させます。



**2** 構図を決め、カメラを固定したら、リリースボタンを押します。

カメラ正面の記録 / セルフタイマーランプが点灯し、セルフタイマーがスタートします。約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる約2秒前から、記録 / セルフタイマーランプは点滅に変わります。

## 補足

- ストロボが充電中のときは、セルフタイマー撮影はできません。充電が完了してからリリースボタンを押してください。
- 次の記録モードでは、セルフタイマー撮影することはできません。  
静止画 + 音声モード・連写モード・音声モード・文字モード

## セルフタイマー撮影を解除するには

セルフモードボタンを押してモードを切り替えます。

# フォーカス ロック

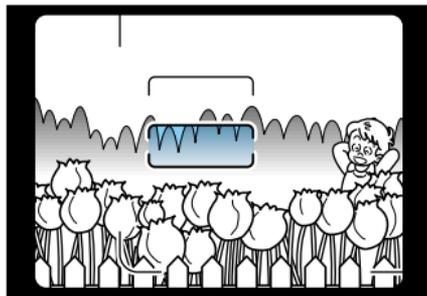
ファインダーのオートフォーカス範囲に入っている被写体の中でいちばん手前にあるものにピントが合います。

ピントを合わせたい被写体がこの条件に合わない場合、その被写体にはピントが合わずボケてしまうことがあります。写したいものに確実にピントを合わせたいときは、このモードを使用します。

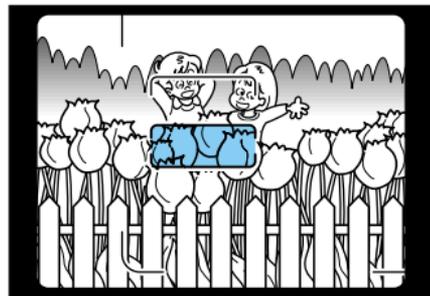
➡「ファインダー内の表示の見かた」P.50

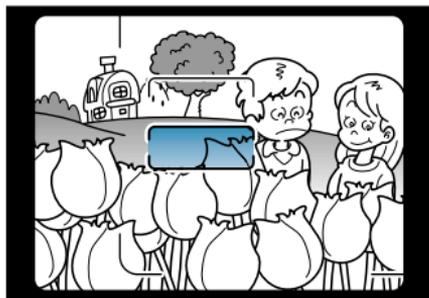
## このようなときにお使いください

ピントを合わせたい被写体が、オートフォーカスの範囲にないときは、背景にピントが合い、人物はボケてしまいます。



ピントを合わせたい被写体以外のものが、オートフォーカスの範囲の中で手前側にあるときは、手前の花にピントが合い、人物はボケてしまいます。

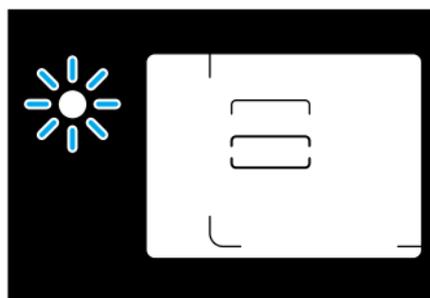




**1** ズームレバーを動かして、被写体の大きさを決めます。

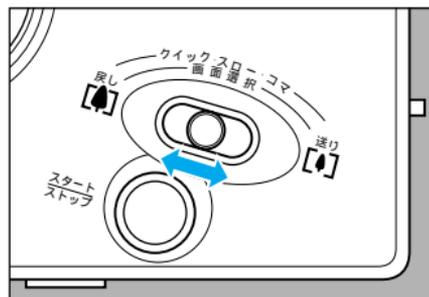
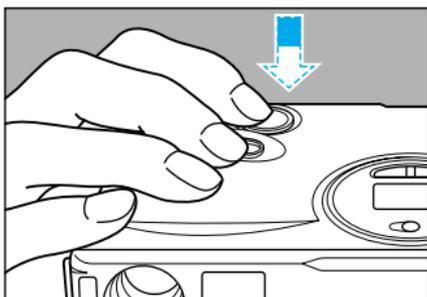
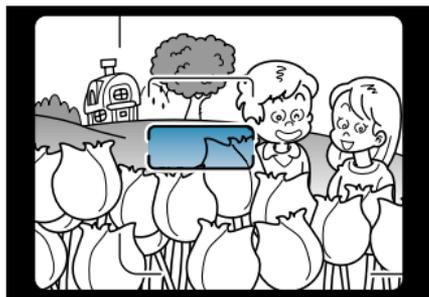


**2** ファインダーのオートフォーカスマークの中心を、ピントを合わせたい被写体に合わせます。



**3** リリースボタンを軽く押して、ファインダー内の緑色のオートフォーカスランプが点灯したら、指をその位置で止めます。

この時点でピントが固定されます。



**4** 指を止めたままカメラを動かして構図を決め、リリースボタンを静かに押しきります。

### マニュアルフォーカス機能について

リリースボタンを軽く押した状態でズームレバーを操作すると、手動でピント合わせをすることができます。ピントがあったら、ズームレバーからは指をはなし、リリースボタンを軽くおした状態からしずかに押しきります。液晶モニター（別売り）やテレビに接続して、画像を確認しながら撮影するとより便利です。

**重要** オートフォーカスランプが点滅しているときは、ストロボ光量が適正になりません。必要に応じて、ストロボ発光禁止モードで撮影してください。